

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	傳染病に就て：雜録
Author(s)	柿田，末四郎
Citation	龍南會雜誌， 7 4： 6 - 2 0
Issue date	1899-10-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/5365">http://hdl.handle.net/2298/5365</a>
Right	

談の士が何如に君民上下の間に歡迎せられしかを見ても知るべし。降て梁に及んで天子自ら龍光殿上に老子を講し。敵兵已に近づくも猶輟めず。百官皆戎服を着て聽講せしが如き。亦以て當時の人心が老子を篤信死守するの傾向ありしを知るに足れり。李唐に至りては老子と姓氏を一にせる故を以て特に之を尊崇し。高祖は廟を立て。高宗は太上玄元皇帝の尊號を贈り。玄宗は又玄學博士を置きて其學を修めしむ。其風因襲して宋に至り、元に至り、明に至り。遂に今日に馴致して、一種の宗教的組織を作まつたるが如き。亦決て老子の意に非ざるなり。要するに老子の學問は彼自ら其淵源を開きて諸子百家の祖と爲り。永く天下の人心を儒教以外に支配したるものなりと謂ふべし。

## 雜 錄

### 傳染病に就て

緒 言

囑託衛生醫 柿田末四郎

病の起るは起るの日に起るにあらずて必ず基因する所あり故に其の本を究めずして其の末を治めんと欲せば當に藥石の効驗を得る能はざるのみならず病毒は遂に深く膏肓に入りて救ふ可らざるに至らんとす假令一時を彌縫して一旦の安きを偷むも亦た終生の憂を貽すに至らん蓋し人の病あるは猶は花の風に於ける月の雲に於けるがごとく天地自然の變化に依りて生ずるものにまて人力の得て制す可らざるが如きの觀ありと雖も苟も其の毒焰を消滅まて天稟の幸福を全からまめんと欲せば優

に其の目的を達することを得可し而て吾人人生に災害を與ふる最も甚きものを傳染病とす其の猖獗を逞くするや療原の火の如く撲滅す可らざるの勢ありと雖も之に應ずるに己人的及公衆的豫防の方策あり苟も其の法を施さ其の用を誤らずんば何ぞ之を恐るゝに足らんや要するに細かに其の原因を探り病理を究め治法を明かに以て始めて豫防の法を講すべし抑も豫防の法たるや輕易簡捷行ひ易きの事に属す然れども行ひ易きの事未だ必ずしも行ひ易からず世人動もすれば道は近きに在りて反つて之を遠きに求む嗚呼亦た過れり爰を以て予が不敏を顧みず聊か所思を吐露して貴誌の餘白を汚すも亦た故なきにあらざるなり

#### 傳染病の本性及其傳播

傳染病なる名稱は近時人の皆な唱ふる所に於て三尺の童兒と雖も之を知らざるものなきに至れり然れども學術上よく其の本性の如何なるものなるやを確定することは識者と雖も難しとする所にして今試みに學者の命名せし種類を列記すれば左の如し

疫 病

傳染病

流行病

地方病

感染病

瘴氣性病

醱酵性病

細菌病

寄生性病

以上數種の名稱は全一定義の下に於て説明し得可きものなるや否や或は全く別意義を有するものなるかの間に至りては予等淺學輩の容易に斷言せ能はざる所なり故に予は傳染病に關する最近の學說

即ち黴菌學的に由りて其の梗概を説述之以て讀者の參考に供せんとす

輓近醫學は駁々として駟馬も及ばざるが如きの進勢を有し殊に傳染病學上著大の進歩を來せたるは彼の黴菌學の一科に於て此學の進歩發達は以て疾病の原因、豫防、診斷、治療上等に偉大の功績を現はし爲めに傳染病なるものゝ名義は愈々複雑の域に達せたり彼の肺結核（俗に單に肺病、勞咳、風勞等と唱ふるものゝ類）の如き古來遺傳病として世人の毫も意に介せざる所なりしが一千八百八十二年獨逸國の醫學博士ロベルト・コホ氏が其の原因物たる結核黴菌を發明し之れが純精培養を行ひ以て動物試験を遂げ其の愈結核病の原因物たることを確定し之を世に公にせしより以來一般に恐る可き傳染病たることを知るに至れり然れども傳染病なるものゝ原因悉く黴菌に在りと云ふは未決の問題なりとす之を要するに傳染病なるものゝ多數は一の微小有機體即ち黴菌が或る一定の機會を得て人身体中に竄入し爰に蕃殖増多し其の生存經過中代謝產物を形成し以て害毒を逞く、疾病を來すものと云ふなり

今や急性傳染病とて其の慘害を與ふる最も甚きものを亞細亞虎列拉、赤痢、發疹室扶斯、腸壁扶斯、痘瘡、實扶的里亞、猩紅熱、ペストの八種とし此の諸病には一定の法律上の制裁（傳染病豫防規則）を以て其の蔓延傳播を防禦せしむあり然れども傳染病とて吾人の注意す可きは實に以上八種の疾病のみならず急性病に於ては麻疹、流行性耳下腺炎、流行性感昌、流行性腦脊髓膜炎、瘧疾、肺炎、急性粟粒結核、再販熱、广拉里亞、其の他破傷風、丹毒及爾余の創傷傳染病等、慢性病に於ては結核、癩病、梅毒等其の重なるものとし其の他動物傳染病にして人に傳染するものあり脾脫疽、馬疫、恐水病等最も恐る可きものとす

傳染病の發生蔓延及傳播の狀態を記述する前に方り其の病原物たる黴菌に就て一言するの必要あり抑も微小有機體と稱するものゝ内には動物性及植物性の別あり甲を原始虫と云ひ乙を黴菌と云ふ

黴菌は最下等の穩花植物に屬し葉綠素を含有せず其の種類無數なり此の種屬は病原物となるものは所謂分裂黴菌と稱するものにまて芽胞形成に由り各細胞は分裂に由りて最も速に蕃殖するものなり然れども其の寄生する狀態に従て左の種類あり

一、死滅せたる動植物體に好て生活するものあり(腐敗菌或は死物寄生性黴菌と云ふ)此の分裂菌は無害にまて敢て病原となるものにあらず

二、生活體に好て生活するものあり(活物性寄生性黴菌と云ふ)多數の病原菌は之に屬し更に二種の別あり

(イ)死滅したる動物體中に全く發育せ得ざるもの(偏性活物寄生性黴菌と云ふ)

(ロ)生活死物兩體に發育を能く病原となるもの(通性活物寄生性黴菌と云ふ)

以上の種類は無害及有害のものなれども最も有益なるものあり即ち醗酵菌の如きは其の生存經過中有機質を分解して亞兒個保兒、醋酸、乳酸、牛酪酸、炭酸等を化生す吾人の日常欠く可らざる酒類、味噌、醬油等は此の菌に由りて得たる賜物なりとす

黴菌の所在 之れ最も廣汎なるものにまて吾人の生活する周圍即ち空氣、家屋内、衣服、飲食物其の他身体内外部及分泌物排泄物等一として黴菌の存在せざる所なく一言以て之を云へば吾人体身の全部は黴菌に圍繞せられつゝありと云ふも不可なきなり果て然らば何故に健康なるやの問ひ起らん

之れ別に理由の存するあり后段に於て述べんとす

傳播の狀態 黴菌の種類無數に於て所在の廣汎なること前述の如くなるを以て其の傳播狀態も亦た頗る複雑に於て或は直接或は間接隨意に傳播を多數の人を侵するものなり即ち直接に傳染する場合に病原菌患者の体内を去るに臨み猶ほ生力活潑に於て他を襲ふの力あるときに於て急性發疹病、結核、淋疾、梅毒及恐水病等の傳染の如し其の間接に傳染するは病原菌の生力前者より弱きときにして以上の諸病に於て見る所なれども恐水病に於ては間接傳染皆無と云ふも可なり其の他再販熱、麻拉里亞の病原物は血液中に存在す体外に出でざるにも係らず傳染するは蚤蚊等の媒介に由るものとす直接傳染は以上の如く病原菌の生力活潑に於て患者と密接するの外多くは間接即ち種々の傳達体所謂介者に由るものにして之れに属するものは左の如し

一、飲食物、口に口は災の門と云へることあり此の災は病の云ひにあらずと雖も飲食物の媒介に由りて口より入る病災種々あり即ち虎列拉、赤痢、腸チフス、結核、脾脫疽等の如し而て水は單に飲用するのみならず手指、器物等を洗滌するも亦た一の媒介をなすものとす故に傳染病流行時に於て内外用水とも凡て煮沸したるものを用ゆるは此の理由あるを以てなり

二、空氣に由る傳播も亦た著く殊に其の運動(風)に由て一層病毒の散蔓を致すものにして今日迄發見されたる空氣中の病原菌は甚だ多からずと雖も急性發疹病、流行性腦脊髄膜炎、流行性耳下腺炎、急性癆瘵、質斯、肺炎、結核等は空氣の媒介に由り呼吸器系より侵入するものとす麻拉里亞の如き以前は一種の瘴氣(ミアスマ)と稱する毒氣を吸入するより來るとし夕刻麻拉里亞地方を散歩するは害ありなると唱へたりされど其の原因物たる『プラスモヂウム』發見以來瘴氣に由る

どの舊説は勢力を失ひ血液を吸吮する蚤蚊等の媒介に由り傳播するとの説眞に適しとす

三、土地は傳染病の傳播上最大關係あり即ち傳染病者の排泄物屍体等は地中に埋められ又た空氣中の不潔物は風及雨雪等に由て地上に來り其他吾人の使用を終りたる凡百の老廢物は悉く土地に由りて受容せらるゝを以て土地はあらゆる病原物を藏するものなり

四、傳染病者の排泄物及屍体より病毒を傳播するは勿論なれども恢復期及病者に接したる醫士或は産婆の消毒不完全なるものにして介者たることあり殊に創傷傳染病及産褥熱に於て然りとす

五、虫類蚤蚊等に由る傳播は既に述べたるが如し其他恐る可きは蠅にして此ものは數多くして散在し且つ好て不潔物に群集す病原物をして生活の儘之を隨處に運搬するを以て頗る危險なり故に飲食物の如きは嚴に其の害を防がざる可らず

黴菌の存在前述の如く廣く從て傳播の方法複雑なるにも係らず比較的に病者の少きは何ぞや他なき無數の黴菌中病原菌は比較的少數なること、天然殺菌法あること、各人感受性并に不感受性あること、及人工的殺菌法(消毒法)等のあるが爲めなり以下逐次之を述べんとす

天然殺菌法 黴菌の生活中は猶ほ人生の一代に於けるが如く萬事意の如くなるものにあらず所謂塞翁が馬鵲の嘴と唱ふるが如く彼等の一生にも亦た種々の不仕合ありて無事に一生涯を經過するは甚だ稀なり其の不仕合に算入すべきもの左の如き

一、營養欠乏 黴菌は如何に下等の植物なればとて全く活物なれば其の生命保續に必要な營養物を攝取せざる可らず然れども意の如くならず常に饑渴に耐へず遂に餓死するもの其の幾許なるやを知らず就中胚胞なきものに於ては活期短しとす

二、光線 彼等(黴菌を指す以下全し)の最も好む所は暗所なり故に明かなる處殊に日光の直射は彼等を殺すに有力なるものにて少時に於て死滅するものなり故に吾人の日常使用する寢具等は時々日光に曝露するを宜とす

三、溫度 彼等殊に病原菌の發育に佳適の溫度は人肺の平溫三十七度に於て冷熱其の何れに偏するも必ず死滅するものなり然れども冷は熱に比すれば抵抗力強しとす

四、乾濕の度 亦た彼等に關すること大なり即ち乾燥の狀態に於ては永く生活すること能はず殊に胚胎なきものに於て然りとす

五、優勝劣敗 全一器中に數種の黴菌發育するときは彼等の仲間には常に生存競争の行はるるものに於て強者は常に弱者を制し加之其の產生物を以て他の發育を停止するものなり

以上種種の不仕合を排し得て偶々吾人の身体に近くも其の侵入するや多くは一定の部位(消化器系、呼吸器系等)ありて猥りに侵入す可きものにあらず且つ其の侵入部位に於ける抵抗力強ければ發育すること克はすされど彼等に於て若し以上の不仕合なければ吾人を病まざることを其の幾許なるやを知らず天然殺菌法は實に吾人に對する貴重の賜物なり』

感受性(素因)及不感受性(免疫性) 全一傳染全季に流行し一家族數人全時に罹病するも甲は重症乙は輕症丙は全く罹病せざる等の例は往々實驗する所なり之れ各人注意の周到なると否らざるに由るにあらず即ち生來各人性質の特殊なる所以に於て所謂特異素因及免疫性と稱するもの之なり素因に屬するものは遺傳、虛弱の體質、一定の年齢、不良の季候、不潔の土地等なり

今や醫學の進歩は世人の喋々する所なれども傳染病學上に於ける黴菌學程長足の進歩をなし且つ



人生に功績を與へたるものは之れなからん左に述ふる所の免疫性の如き其の最もなるものとす  
れば以下其の功績の大意に就て讀者に紹介せんとす

不感受性即ち免疫性とは吾人が傳染病に對する抵抗力強盛にして譬へ其の毒質に觸るゝも罹病せざる状態の謂ひにして之れに左の區別あり

免疫性  
先天性免疫質

後天性免疫質——人工免疫質

自動性免疫  
『トキシーン』を注射して得たるもの  
他動性免疫  
自動性免疫動物の血清を注射  
えて得たるもの

△先天性免疫質發生の理由に就ては種々の理論あれども今日迄あらゆる學者の研究したる所の成績に由れば白血球の產生物中『アレキシン』と稱する一種の蛋白質ありて殺菌力を有するに由ると云ふ

後天性免疫質發生の理由及其の本性は未だ明確ならずと雖ども人工免疫法の發明は之に由りて誘導せられたり即ち或る傳染病の病毒を培養し其の毒力を減弱(熱又は消毒藥を以て)せしめて之を動物に注射するときは該動物は輕症の全病を發し不日にして快癒し免疫の性質を得るに至る此の注射を反覆するときは該動物は高度の免疫性を得其の血清中には『アンチトキシーン』『抗毒素』と名け彼の『アレキシン』に比すれば熱及消毒藥に對する抵抗強き物質を含有し此『アンチトキシーン』は『トキシーン』(毒藥)を分解して其の毒力を逞ふること克はざらしむ即ち『トキシーン』を注射して中毒症を發したるものに此の免疫動物血清を注射するときは猶ほ能く恢復せしむることを發見されたり此の試験の陽性成績は以て治療醫學上非常の裨益を與へたる

所にして彼の明治二十七年以來人跡に實驗せられて偉効を奏する實扶的里亞血清療法と稱するものは此の理論に基き發見されたるものなり即ち實扶的里亞菌の『トキシノチ』を動物に注射し免疫せしめたる該動物の血清を注射するに在り故に譬へ偉効を奏する此の血清療法と雖も其『トキシノチ』に由り強度の中毒症を起し心臟力減退したるときは(即ち病の末期)多量の血清を用ゆるも(即ち『アンチトキシニン』強きも)其の力及ばざるに至る故に此の療法も可成病の初期(即ち『トキシノチ』の力弱きとき)に施すを最良とす

以上の他天然痘は其の原因物未だ詳ならずと雖もゼンナー氏の發明に由り數年來行はれつゝある種痘術の如きは之に對する佳適の人工免疫法なりとす

人工免疫法發明の効果は亦た恐犬病、虎列拉、腸窒扶斯、赤痢、破傷風等の諸病に於ても將に汎く行はれんとするの秋に際えたり唯た恨むらくは結核病に對する完全なる免疫法の發明なきの一事にえて若し有之の曉に至らば世界人類の幸福之に過ぐるものなからんと信す

人工的殺菌法 所謂消毒法にえて豫防法の條下に述べんとす

#### 傳染病患者數及其死亡

傳染病が年來如何に吾人の生命財産に損害を與ふかは左表に由て之を知るべし

第一表

	人 口	出 産	死 亡	八種傳染病 患者	全死亡	肺病患者	八種傳染病 豫防費
二十八年	四二,七〇六	二,四六四	八五,四三三	一五,四四三	六四,八六六	五,八六六	五七,五〇二
二十九年	四二,七六八	二,六二七	九二,六三三	一四,九二七	三九,一五〇	五,九九二	五〇,八六七
三十年	四二,三六六	一,三五一	八七,六三七	一七,四九七	四七,四二二	六,二七〇	三〇,九六三

第二表

	人口千ニ對ス ル増殖ノ歩合	人口千ニ對 スル出生	全死亡	死亡ニ比シ 出生ノ超過	八種傳染病患者 百ニ對スル死亡	人口壹萬ニ對 スル肺病患者	人口一人ニ對スル 八種傳染病豫防費
二十八年	一〇,九四	二九,四九	二〇,一七	三九,〇〇五	四二,五四	二,五一	〇,〇二四余
二十九年	一〇,三五	三〇,〇一	二一,三七	三六,三三五	二六,二三	一三,八一	〇,〇二九余
三十年	一一,一九	三〇,六九	二〇,一六	四六,二六	二六,六七	一四,五二	〇,〇七二余

以上二表の外他の傳染病に因する損害の如き統計表の示す所なければ詳細を知る竟はすと雖ども其の損害は決えて右に下らざる可く又た本表に於ては單に肺病とあれども此の内には眞の肺結核のみを算入せよか又は他の肺病(肺炎の如き)を含むことなきや尤も病類表調製に關する省令の内凡そ其の編入す可き病類の部門なきにあらざると雖ども肺病なる名稱の廣汎に失するを以て或は之を他の部門(呼吸器病)と混同することなきや疑はざるべしと其の肺病なるものゝ人口の増殖と共に年々増加す

るは本表に由りて明かなる所なり其他本表以外に於て損害を來す所の傳染病就中花柳病は各地に於て驅黷院を設け多少の地方費を支出る本病の蔓延を豫防せり』

八種傳染病中殊に多數を占むるものは赤痢病に於て昨年度に於ける統計は左の如し

三十一年中總患者九萬九百七十六人 全死亡二萬二千三百九十三人

赤痢豫防費とて國庫より補助せたるものゝ總額拾四萬八千九百貳拾貳圓拾壹錢九厘

全府縣費總額 九拾壹萬五百貳拾貳圓七錢壹厘

全郡費總額 四千八百八拾五圓六錢五厘

全市町村費 貳百四萬九千六百拾圓七拾參錢六厘

全寄附金 四萬七千四拾四圓八拾四錢四厘

小計金參百拾六萬參千九百參拾九圓九拾九錢貳厘

各府縣生産損害總高參百五萬九千九百六拾九圓八拾錢九厘

總計金六百拾六萬八千九百九圓八拾錢壹厘

之を患者一名に割當つれば實に六拾七圓八拾錢死亡者一名に付貳百七拾五圓又た本年の患者數は一月一日より九月十一日に至る五萬六千拾三人一日平均千二百余名の新患者を出すと云此の勢を以て猖獗を逞ふべからんには本年中には凡そ拾九萬人余の患者を出すに至らん

傳染病の國家に對し經費を要すること斯の如く且つ其の生靈を亡すこと幾許なるを知らず世人は日清戰役に於ける國家の損害を口にすることも傳染病の慘害を及ぼすこと上述の如きに氣付ざるは何ぞや且つ戰爭は一過性にして傳染病は永久性なれば其の損害一層甚きとすされど傳染病の患者及死亡數

は、吾人衛生思想の發達に由て減少せしめ得らるゝことを忘る可らず

### 傳染病の豫防

傳染病の豫防は己人的及公衆的に於て甲に属するものは一般の衛生思想の發達を必要と云乙に属するものは病芽を遠け或は其の輸入を禁ま(遮斷法、檢疫法(海上陸上)或は上水下水の改良、排池物の運搬、土地の清潔法等なり殺菌法(即ち消毒法)として理學的に於ては熱力(燒却、煮沸、熱蒸氣(熱空氣等)化學的に於ては藥劑(昇汞、石炭酸、生石灰)なりとす

以上の諸法に就て一々其應用法等を詳述せんことは短篇の能く盡す所にあらず故に予は此の篇に於て特に結核病に對する豫防上に就き一言せんとす何となれば左の理由あるを以てなり

一、結核病は人生最要の時期(少、壯年期)を侵すこと多く爲めに罹病者の生命を奪ひ或は永久不生産的の動物たるに止らざることを

二、結核病は傳染后潜伏期の長短不定に於て病初の徵候完全ならず爲めに病者は不注意に看過すること(慢性の胃病と自覺するもの多し)

三、一回結核病に罹り初期の注意を怠るときは其の經過頗る慢性に亘り一張一弛或は暫時停止せし遂に完全治癒を得ざること

四、夫婦間并に全病看護者に傳染するの例確かなること

五、結核病は四季中時季を選ばず間斷なく散在性に發病者を出し漸次蔓延の兆あること

以上數項の危險あるにも係らず世人が結核病に對し最も忌む可く最も恐る可き傳染病たるの觀念に乏きこと等は愈本病の蔓延に對して有力なるものとす故に吾人の之に對する注意は周到ならざる可

らずされば予は之を左の三段に分つて述ぶるを適當なりと信ず

### ○己人的豫防

結核菌は他の病原菌に比之其所在最も廣く且つ空氣の媒介に由り傳播するを以て吾人は之を吸入しつゝあるや疑なま然れども本病に感染する機會は先づ素因あるを要ま數回病原菌に接し其の接する際抵抗力の減退部あらざる可らず此の三者にまて完全するときは容易に本病に侵さるゝものなりされば素因を有せず病原菌に接すること稀にまて抵抗が強盛なるときは敢て恐るゝに足らず故に其の目的を達せんと欲せば左の數項に注意す可ま殊に素因あるものに於て然りとす

一、常に飲食を節し脾胃を防ぎ(嘗て本會雜誌に述べまことあり)身體の運動を調整ま以て筋肉骨格の發育を完全ならしめ苟も過勞、安逸に失せず勉めて身體に弱點(抵抗力減部)なからまむるを要す

二、病者を去ること愈遠ければ從て病原菌愈少し故に萬止を得ざるるとき病者に接するも猥りに對談、飲食等を爲す可らず

三、病原菌侵入の道路(呼吸器系、消化器系)に弱點あるときは病者に近接せざるを安全なりとす  
四、結核病の恐る可き傳染病たるは疑なし然れども周到の注意を爲すときは容易く傳染す可きものにあらず故に猥りに恐怖すれば却て抵抗力の減退を來すことあり慎まざる可らず

### ○公衆的豫防法

結核病は八種傳染病の如く急劇に慘害を來すことなく從て法律上に於ても別に制裁なきを以て世人の結核病を見る恰も非傳染病者の如く(病者亦然り)恬として忌避するの狀なきは何とや其の病

原物たる結核病の發見以來既に十七年を經過したる今日世人の餘りに無邪氣に去て猶ほ此の恐るべき觀念に乏きは豈に慨嘆の至りにあらずや

獨國伯林府國會議事堂に於ては本年五月廿四日より全廿七日に至る四日間萬國結核病撲滅會議を開設せられ本邦よりは醫學士高木友枝氏出席せられたれば全氏飯朝の曉に至らば本病に關する公衆的豫防一層嚴密ならんと信ず

故に公衆的豫防を完全ならしめんと欲せば先づ世人をして其の恐る可き傳染病たるの觀念を起さしめ然る后各己人の注意及患者の分泌物排泄物殊に咯痰の如きは嚴密なる殺菌法(消毒法)を行はざる可らず故に公衆衛生上に於ては左の諸件に注意せざる可らず

一、諸學校、工場、會社、役所、宿屋等多人數集合の場所に於て患者あれば可及的之を隔離せ排泄物咯痰、寢具、室内、飲食器具等は嚴重なる消毒法を行ひ病勢に由り直に休養せざる可らず(學校に於ては之に關する文部省令あり)

二、病初の徵候不完全なることは既に述べたるが如し故に室内に於て痰を咯出するには豫定の痰壺の外決して猥りに咯出す可らず

三、各人の豫め轉居せんとするに臨み借家、下宿屋、等に於て本患者の有無并に嘗てありしや否や等を確認可し

四、社會の交通頻繁なるに従ひ多人數の宴會等益多き此際從來行ひ來りし盃の獻酬或は俗に『シツボク』と唱へ各々自己の箸を以て數人全器の食物を喫すること等は斷然禁するを安全なりとす

五、近時幼者に於て猥りに刺戟性の卷煙草を喫するを見る彼等家庭の制裁あるや否やを知らずと雖ども一の广酔劑の濫用と見做すべき惡弊をして世人の之を不問に措くは何ぞや單に广酔劑のみならず咽喉を害す將來疾病の豫備をなすに氣付ざるや若し之を放任せば台灣の阿片に次ぐ第二の惡習と云はざるべからず

### ○病初の注意

以上述べたる種々の注意あるにも係らず若し不幸に於て本病に感染することあらんか直に以て嚴重の治療を加へたらんには病勢頓挫することなきにあらずと雖ども元來非常の慢性病に於て其の初期に於ては或は單に『胃が悪ひ』と感ぜ或は一定の訴ふべき症候なくして唯だ全身何となく倦怠を覺へ漸次体力の衰耗を來す等（肺病なりとて咳嗽は初期に必發のものにあらず）に於て其の著き痛苦を感ぜざる間は身体的并に精神的操作に耐へ一見健康人の觀あるを以て姑息的に一時の違和を制し在再經過をつゝある内病勢は知らず識らず増惡し遂に救ふ可らざるに至るもの蓋し少からず故に其の初期に於ては患者并に醫士も共に周到の注意をなすにあらざれば其の期を失し爲めに不測の患害を蒙ひるものとす去れば罹病後の注意は其初期に於てするを第一とす即ち姑息の處置に甘んぜず且つ迷信を去り勉めて疾病に對する原因的療法を怠る可らず又た罹病者の健康人に對するや常に自ら注意して傳染の憂なからんことを期するは道德上の義務とて之を勉めざるべからず